

# Static metabolism syndromeの一例



**峯 尚志 先生**

峯クリニック

1985年 熊本大学医学部 卒業  
1986年 医療法人 木津川厚生会 加賀屋病院にて三谷和合先生に師事  
1999年 上海中医薬大学に短期留学  
2004年 峰クリニック開設

## はじめに

近年、生活の欧米化によって肥満人口が増加し、メタボリック症候群が注目されている。最近、メタボリック症候群の基準を満たす高度肥満患者さんの中に、関節周囲が多発性に赤く腫れて痛みを訴える方を複数経験し、Static metabolism syndromeと定義した(表1)。その1例を紹介する。

表1 Static Metabolism Syndrome (定義)

- ◆患者さんは肥満しており、原因不明の関節周囲の痛みを訴える。
- ◆高血圧、糖尿病などを合併している場合があり  
Metabolic syndromeの一垂型の可能性がある。
- ◆乳癌など癌の既往のある例もある。
- ◆男女を問わずおこりうる。
- ◆局所の皮膚は実際に赤く腫れて痛むという炎症の所見を呈するが、実際の炎症反応はないか、あっても軽い。
- ◆膠原病、痛風などの他の疼痛性疾患は否定される。

## 症例 濡熱痺証

症例：20歳、男性

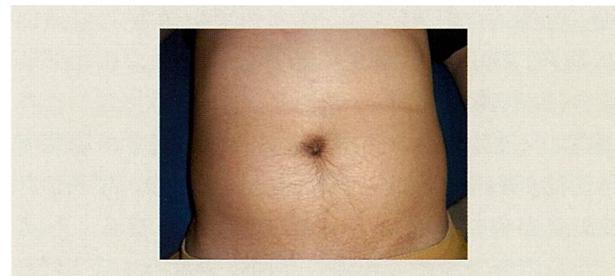
主訴：手の甲、手首、背中、顔面、足の甲、大腿部が熱をもち、赤い斑点が出て腫れて針で刺すような痛み  
現病歴：高校卒業後、電気メーカーに就職したが、夜勤などの不規則な勤務で過食となり体調を崩し

ていった。体重が入社後5ヵ月で15kgも増加した。そうするうちに、暑い環境に居たり、熱い飲み物を飲んだり、精神的に興奮すると、手の甲、手首、背中、顔面、足の甲、大腿部が熱をもち、赤い斑点が出て腫れて針で刺すような痛みを自覚するようになった。痛みは次第に増強し、勤務先も退職し、市中の大病院や大学病院の総合診療科、皮膚科、心療内科、麻酔科を受診した。2年間継続的な診療を受け、その間、精神安定薬、抗うつ薬、ステロイド剤さらには免疫抑制薬などの投与を受けていたが、まったく改善しないため当院を受診した。

現症：身長170cm、体重87kg、腹囲95cm、BMI30.1と肥満体型であったが、高度なメタボリック症候群という程ではなかった。

血液生化学検査でCRP(1+)、中性脂肪338mg/dLであったが、甲状腺、副腎皮質、下垂体機能検査には異常を認めなかった。本症例で特異的なことは、短期間で急激に肥満したこと、腋下部、大腿部さらには膝下部に皮膚線条を認めた。腹部は膨満し、腹力は実であった(図1)。

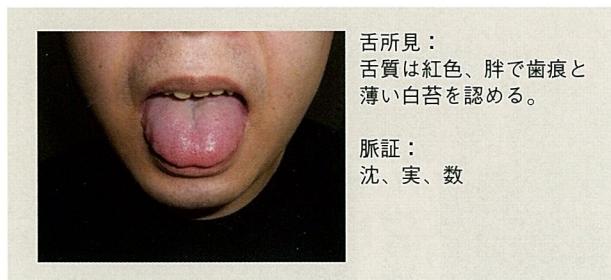
図1 症例の腹部所見



暑がりで少しでも暖かいところにいると、痛みが生じるため、クーラーの効いた部屋に1日中こもっている。外気にあたるだけで、痛みが生じるため11月までは戸外に出ることもできないという極度の引きこもり状態であった。

舌は紅色、胖で歯痕と薄い白苔を認めた。脈は沈・実・数であった(図2)。

経過：東洋医学では湿熱体質と呼ばれるものがある。その特徴は、肥満、暑がりで赤ら顔、脂っこ

**図2 症例の舌所見**

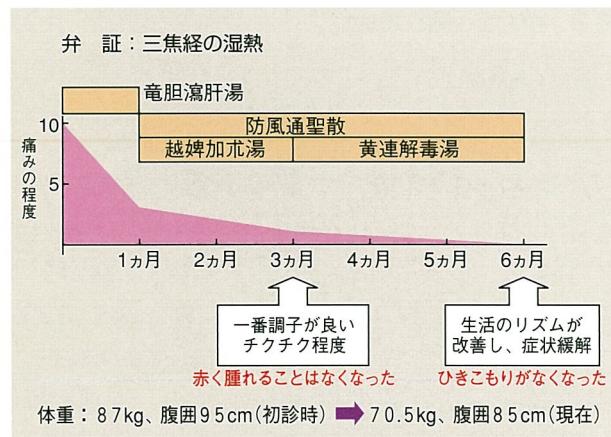
いものを好み、湿るために体が重くなるなどの症状を呈する。また、湿気や熱の多い環境に対する適応力不足も指摘されている(表2)。本症例の場合、暑がりで冷たいものを好む、体が重く疲れやすい、という湿熱の徵候が多く認められた。

**表2 湿熱体質**

<p>「水」と「熱」が身体にいっぱいあるタイプ。 ドロドロしたものが身体に充満している体質。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 肥満して腹部の脂肪が多い。</li> <li>◆ 暑がりで汗かき。</li> <li>◆ 赤ら顔で顔が脂っぽく、吹き出物ができやすい。</li> <li>◆ 脂っこいものが好きで、水やお酒をよく飲む。</li> <li>◆ 身体が重い感じで、だるい。</li> <li>◆ 髪が薄い場合もある。</li> <li>◆ 胸が苦しかったりなにか痛んでいるような感じがする。</li> <li>◆ 湿気や熱の多い環境に対する適応力に欠ける。</li> <li>◆ 便は時にゆるく、粘り気があり、残便感を訴える。</li> <li>◆ 性格は鈍でおだやかな場合と、熱が強くなるとイライラがつよい場合がある。</li> </ul>
--

以上のことから、本症例も典型的な湿熱証と判断し、患者さんにはStatic metabolism syndromeという病名で、過食と運動不足による代謝機能の低下がその原因であることを伝えた。

そこで、竜胆瀉肝湯を煎剤で処方し、同時に食事を和風に改善することと運動療法を指示したところ、4週後には痛みは4/10程度に改善した。その後、防風通聖散エキスに越婢加朮湯エキスを合方す

**図3 症例の経過**

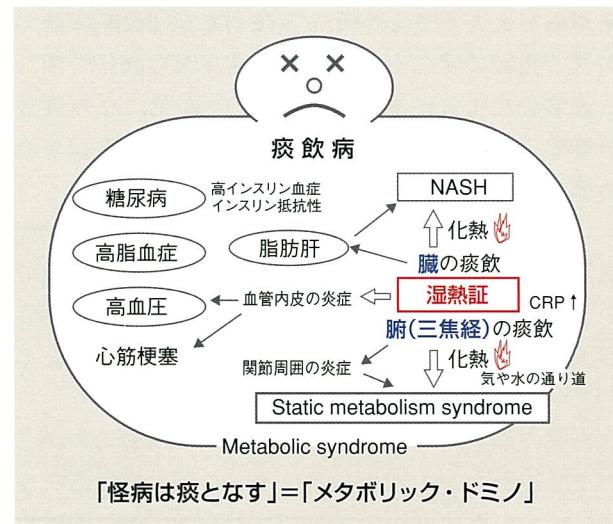
ることで、痛みは3/10程度まで改善した。さらに、防風通聖散合黄連解毒湯に変方したところ、3ヵ月後には痛みは2/10までとなり、痛み発作はチクチク程度で赤く腫れることはなくなってしまった。6ヵ月後には痛みは1/10以下になり服薬も中止することができた(図3)。

現在では、引きこもりをやめて、就職のための技術研修に積極的に取り組んでいる。

## まとめ

メタボリック症候群は、東洋医学では痰飲病の概念に極めて近い病態で、飲食の不摂生や運動不足が引き金となり、多くの病気を引き起こす。このようなことを西洋医学ではメタボリック・ドミノと表現するが、東洋医学では「怪病は痰となす」という言葉で同様のことを表現している。

さらに近年、メタボリック症候群と炎症との関連が注目されている。炎症を伴った非アルコール性脂肪肝(NASH)の病態が明らかにされているが、臓器のみに炎症が起こるのではなく、東洋医学で三焦經と呼ばれる組織間にも炎症が起こり、それが関節周囲の発赤や疼痛を起こすと考えると、本症例の病態が説明できる(図4)。湿熱証と弁証することで的確な治療が可能になった症例である。

**図4 Static metabolism syndrome**

## COMMENTS

**後山** まさに平成時代を象徴するような病態について、新しい考え方で漢方を使用する必要性があることを、紹介していただき、大変参考になりました。